10月 園だより

令和8年　10月 1 日
佛教大学附属こども園

「仏教保育　10 月のねらい」
同時協力（どうじきょうりょく）

こころのねっこ Bukkyo University kindergarten since 1976

「一緒に直そう！」

ある日、園庭の踏切ごっこで使っていたバーが折れてしまい、4 歳の子どもたちが小さな声で「どうしよう…」「ごめんなさい」と職員室にやってきました。「なんで折れちゃったんだろう？」と話を聞くと、「みんなが引っ張ったから…」と責任の押し付け合いが始まります。しかしそのうち、「こうしたらよかったんだよ」と自分たちの遊び方を振り返る姿が見られました。



そこで、「みんなはこれをどうしたいの？」と問いかけると、
「なかったら小さい人が困る」「僕も使いたい。直してほしい。」
という声が返ってきました。自分たちだけのものではなく、
みんなで使う大切な道具だという認識が育っていることに、
嬉しい気持ちになりました。

子どもたちは 「テープを切る人」「巻く人」 「バーを持っておく人」と役割を決めながら（ケンカをしながら）修理を始めます。
「できた！」と持ち上げると、バーは“への字”に曲がってしまい、
「まっすぐにならないなぁ…」と困り顔。それでも「ここに置いたらまっすぐになるんじゃない？」と地面に置きました。そして何重にもテープを巻いて何度も試行錯誤を重ねていました。テープの跡は「まっすぐになりますように…」と子どもたちの願いがこもっているのでしょう。

うまくいかないことも楽しみながら挑戦する姿は、遊びの中で育つ「こころ」そのものです。 自分たちで考え、協力し、失敗してもまたやってみようとする気持ち――こうした力は、子どもたちが“やりたい遊び”に夢中になっているからこそ育まれていきます。



結局、持ち上げると、バーはへの字に。（笑）
でも最後には顔を見合わせて… 「また壊れたら一緒になおそうか！」
と声を掛け合っています。前向きな気持ちの子どもたちに私から「その時は先生に声をかけてね。一緒にどうしたらいいか考えるね。」と伝えると、安心したように片付けに向かっていきました。

これからも子どもたちの力を信じながら、友だちと力を合わせたり、挑戦してみようとしたりする瞬間を楽しみにしています。

（宇佐美）